

(別紙2) 平成 22 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073600423		
法人名	医療法人 聖恵会		
事業所名	グループホーム安居		
所在地	福岡県古賀市鹿部485番地 - 1		
自己評価作成日	平成22年6月21日	評価結果確定日	平成22年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方との交流の機会を多く持ち、老人会、区長さんとの関わり強くし、地域に向けた活動に取り組んでいる。又ボランティアの受け入れも積極的に行っている。入居者様の個別の対応に取り組むことでご本人様らしく毎日の生活を楽しく送っていただけるよう努めている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年7月7日		

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

### 自己評価および外部評価票

ユニット名: ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝職員全員で理念を唱和している。又全体カンファの勉強会にて意義を理解し、日々の実践に努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昼食作りのボランティアの受け入れや保育園児の来所、又公民館での老人会に参加し地域の方と顔なじみになるなど、地域の一員として交流を図っている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会参加時、認知症についての説明をしたり、介護予防教室の開催を行い、また施設の見学を勧めたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事、教育計画などの報告を行い、そこで話合った内容やご意見は、スタッフへ伝え全員で話し合いを行うことで、サービスの質の向上に努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に担当職員の参加があり、意見交換をおこなっている。又ボランティアの協力を得たり、いつでも相談できる人間関係を築いている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての資料配布を行ったり、研修に参加するなど、身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関施錠はご家族様説明のもと施行しているが、希望時には散歩など自由にスタッフと共に出かけることが出来る。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体カンファの中で資料配布し、勉強会を行うなど人権についての理解を深め、意識を高めることで虐待のないケアに取り組んでいる。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体カンファの中で制度を理解し、説明できるよう勉強会を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者は利用者やご家族様が、理解されるまで充分説明を行っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見を頂いたり、面会時には気軽に話の出来る関係を築くよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体カンファレンスで提案の機会や話し合いを設けたりして、随時意見を吸い上げる努力をしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けて勤務調整等を行い、向上心を持って働けるような配慮がなされている。資格取得後は給与や評価等に反映がある。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層の採用で、個人の特技や能力を活かしたケアが行え、やりがいを持って仕事に取り組んでいる。		
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権や高齢者の尊厳についての勉強会を行い、又法人内の研修や外部での研修に積極的に参加できるような体制ができています。虐待や拘束など定期的に勉強会を設け、意識や理解が深められるよう取り組んでいる。		
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部研修に参加できる支援体制がある。内部研修では、年間学習計画を立て、毎月勉強会を行い、質の向上に取り組んでいる。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加などして、事業者との交流がある。市のグループホームネットワークでの勉強会に参加している。年間計画に沿って、幅広い職員が参加でき、職員全体でのレベルアップが図られるような支援体制を取っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来ていただき、相談に応じたり、体験をしていただくことで不安を取り除き、安心してサービスが受けられるよう工夫している。また関わりを多く持ち、言動を通して御本人の想いを受容し、不安の軽減に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と面談や電話にて、相談に応じながら安心していただけるよう、御家族との接触の機会を多く持つよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談から入居まで、管理者をはじめ職員が、十分な対応を行っており、信頼関係を築くべく、努力している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として接し、調理、配膳など個々に出来ることを把握し、共に過ごし、支え合える関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に連絡を取り、日々の状況を伝え、面会時には気軽に話しの出来る人間関係を築き、一緒に支えて行けるよう努めている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会することが出来る環境作りや、外泊や外出にて馴染みの場所に行けるよう努めている。		
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの状態を把握し、トラブルにならないよう声かけを行い、コミュニケーションの場が持てるよう、援助している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族様がお見えになられたり、電話や相談を受けたりして支援している。又、入院等が発生した場合も面会等を通じ、継続的な関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族様の希望を聞き、ご本人様らしく生活していただけるよう個別の対応を行っている		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族様から生活歴などを聞き、情報収集を行い、個人の今までの暮らしぶりを把握し、馴染みの環境作りに努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の身体状況や行動を観察。また、連絡ノート、介護記録などを通して、スタッフ間の情報交換を行い、現状の把握に努め、ケアを行っている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者はご家族様に現状を報告し、ご本人やご家族様の希望を取り入れ、互いに話し合いを行い介護計画作成している。		
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録やモニタリングチェック表を使用し、毎月評価を行い、介護計画に合っているか見直しをしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化があれば、臨機に御家族様と相談する機会を設け、希望を取り入れた個人に合ったプランへの変更を行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児の訪問を受けたり、中学生の総合学習の時間の一環としての、勉強の機会の場を設けたりしている。又、歌・詩吟のボランティアなど地域の協力を頂くなどして、楽しく生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院での受診はもとより、ご家族様の希望されるかかりつけの病院への通院は、職員が同行するなどして援助している。		
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察を行い、異常があれば管理者に報告。状態に応じて、各医療機関を受診できるよう支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連絡を密に取り、情報交換を行っている。母体病院が中心となって、医療協力を行っているが、必要に応じた臨機の体制も取れるようになっている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の希望を取り入れ、今後の対応を決めている。スタッフは全体カンファでの勉強会や資料などから学び、方針の共有を図り、チームケアに取り組んでいる。		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体カンファで急変や事故発生時の対応について勉強し、各種マニュアルを作成し、緊急時に対応できるようにしている。今後も訓練を定期的に行うなどして、実践力の習得に努めていく。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体病院との連携を図り、防災訓練を行っている。マニュアルを確認、また全体カンファでの勉強会を行い、各自把握している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権学習や接遇の研修会にて勉強会の機会を設け、意識の向上を図り、プライバシーに配慮した言動に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のかかわりの中での言葉かけ等から、表情や状態を観察し、自己決定できるよう支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況に応じて時間をずらして食事をしたりその方のペースを大切に、ゆっくり無理なく過ごしていただけるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後お化粧をしたり、自分で衣服を選んで着ていただけるよう支援している。また好きな髪型をしていただけるよう美容室へ出かけた時、おしゃれを楽しんでいただいている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳など個人に合った役割分担を行い、一緒に食事作りをしている。また個別でおそばやそうめんなど好みに合ったものを提供し食事を楽しんでいただけるよう支援している。		
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状況に応じた形態でのお食事を提供しており、チェック表に水分食事摂取量の記録を残し、摂取量の把握に努めている。メニューについては、母体病院の管理栄養士に、バランスの取れた献立を考えてもらっている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけにて口腔ケアをしていただき、困難な方には介助にて清潔の保持に努めている。義歯の方は夜間に義歯をお預かりして洗浄をしている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけにて誘導することで失敗をなくしオムツ使用を減らし、自立に向けた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにて排便の有無の確認をしている。又排便困難ある方には水分摂取を促したり、毎朝ヨーグルトを提供したり、又、運動をしていただくよう声かけをしている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人様の希望で毎日入浴したり、順番を決めたり、入浴を楽しみのひとつとしている。また男性スタッフを嫌がられる方には女性スタッフが対応し、気持ちよく入浴できるよう支援している。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後にゆっくりお部屋で横になっていたり、個人の状態に合わせた時間帯で安心して休んでいただけるよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬について把握し、変更時や追加処方時は、確実な申し送りを行って、事故防止に努めている。状態の変化を見逃さないよう、様子観察し、異常があった場合には、随時管理者へ報告して、対応している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の配膳や金魚のえさやり、カレンダーの交換など個人に合った役割を持っていただくことで事だ存在意義を感じていただき、毎日楽しく生活が送れるよう援助している。又生け花や創作活動など楽しみながら気分転換を図れるよう支援している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭の散歩やスタッフと共に母体病院の売店に買い物に行ったり、ご家族様と一緒に温泉やお墓参りに行ったりと希望に添えるような支援をしている。又個別で食事へ行くなどの支援をおこなっている。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際好きな物を選び、自分で支払いをしていただけるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでも電話が使えるよう支援している。又遠方の方より毎週電話を頂きお話をされることもある。手紙のやりとりも自由に行えるよう、発受信の際の援助を行っている。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理の音や食事の匂いのする生活感のあるリビング。テーブルの上には花や植物を飾り、壁には皆さんで作った絵画を飾るなど季節を感じていただけるよう工夫している。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにてテレビを見たり、新聞を読んだり、自分の時間を持ちゆっくりと過ごせる環境を提供している。又入居者様同士が楽しく会話出来るような空間を提供している。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や写真、飾りなど馴染みのあるものを置くことで安心して生活が送れるように努めている		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状況に応じた家具の配置を行い、廊下やトイレには手すりを設置するなど安全に配慮して生活が送れるようにしている。		

**サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係が できている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			